

中長期成長を見据えた経営方針について

株式会社PKSHA Technology
(東証マザーズ 3993)

PKSHA
TECHNOLOGY

2019年6月

本資料に記載された予測、見通し、意見などは、2019年6月19日現在において、一般的に認識されている経済・社会等の情勢並びに当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは、様々な要因の変化等の事由により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があります。

目次

1. Mobility & MaaS領域への展開強化

2. 中期成長戦略：ビジネスモデルの進化

Mobility & MaaS領域への展開強化

- 当社は、創業以来、「未来のソフトウェアを形にする」をコーポレートミッションに掲げ、アルゴリズムが社会へ提供する付加価値を最大化すべく、将来の市場成長性が高い事業領域での取り組みを重点強化しております
- 特に、Mobility & MaaS 事業領域は、長期的にアルゴリズムが活用できる機会が大きく、取り組みを加速します

PKSH ▶

EDUCATION

BIOLOGY

HEALTH

COMMUNICATION

AUTOMOBILE

LOGISTICS

ART & DESIGN

FASHION

CONSTRUCTION

リアル空間のデジタル化としての Mobility & MaaS

- 「リアル空間」と「デジタル空間」の境界線は、深層学習技術により (技術的には) 消滅しました
- デジタル進化は本格期に突入し、今後も二つの世界の融合が粛々と進展していきます
- これまで、大手警備会社、大手電力会社、大手デベロッパー様等と、リアル空間のデジタル化の取り組みを推進してきましたがこれからも、未来のソフトウェアとしてのアルゴリズムソフトウェアの社会実装を推進していきます

with  AUTOMOBILE

モビリティ & MaaS

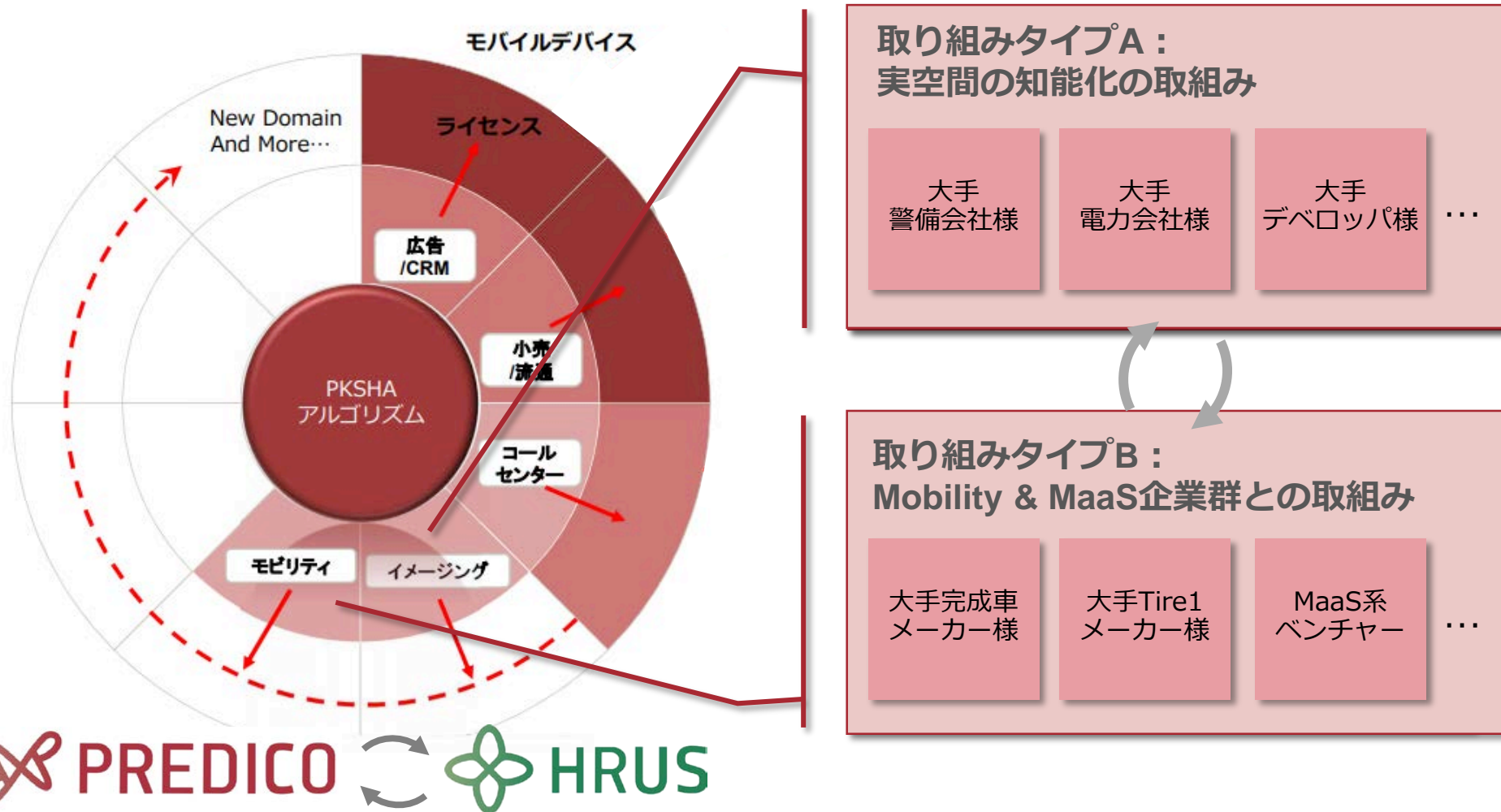
PREDICO for Mobility & MaaS

Mobility & MaaS

移動(Move)と定住(Stay)いう行為は、未来どのように形を変えるでしょうか。日本のものづくり精神が起点となり世界中に“網の目”のように張り巡らされた交通ネットワークと各国で立ち上がるローカルな都市空間は、アルゴリズムを一つのドライバーに形を変え始めています。都市空間はセンシングされアルゴリズムは我々のライフスタイルにフィードバックを求めます。我々はどのようなインテリジェント移動体ネットワーク(MaaS)をデザインできるでしょうか。それはカメラによる監視社会ではなく、空間(Space) / 車(Car) / IoT機器(Device)が有機的に繋がりをローカル性がよりエンパワーされる形で実現されるべきだと考えます。Mobilityの未来をパートナー企業様と共創します。

● [詳しく見る](#)

実空間 & Mobility/MaaS 領域の取組みの加速 (2019年9月期第2四半期決算説明資料より再掲)



トピック①：株式会社アイドラ（株式会社アイテック）の買収

- エッジの画像認識技術を用いたロックレス式駐車場を発明し、いち早く駐車場をクラウドに日本で繋げたIoTデバイスを軸とする日本発のものづくり企業です
- アイドラ社は、駐車場運営と機器がデジタルメディアと融合していく未来像を描き、製品を企画・開発・販売してきました
- 次世代Mobilityにおける未来のソフトウェアを実現すべく、アイドラ社の株式を100%取得します

アイドラ社グループの概要

グ ル ー プ 概 要	株式会社アイドラを親会社として、株式会社アイテック、昭立工業株式会社の3社で構成 (主な営業活動は株式会社アイテックが行う)
グ ル ー プ 事 業 概 要	駐車場機器の製造販売・設置・保守管理業務、時間貸駐車場の運営・管理業務等
本 社 所 在 地	東京都新宿区二十騎町2番2号
代 表 者 の 役 職 ・ 氏 名	代表取締役 一ノ瀬 啓介
設 立	2012年8月
資 本 金	3百万円

アイドラ社の最近3年間の連結経営成績及び連結財政状況

決 算 期	2016年7月期	2017年7月期	2018年7月期
連 結 純 資 産	229百万円	382百万円	603百万円
連 結 総 資 産	3,500百万円	3,299百万円	4,130百万円
連 結 売 上 高	3,684百万円	3,986百万円	4,458百万円
連 結 営 業 利 益	190百万円	264百万円	225百万円
連 結 経 常 利 益	152百万円	262百万円	200百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	218百万円	153百万円	233百万円

注：数値は未監査です。アイドラ社は連結決算を行っていません。親会社と子会社の単純合算数値からグループ内の取引高及び債権債務を相殺消去した数値を記載しています。

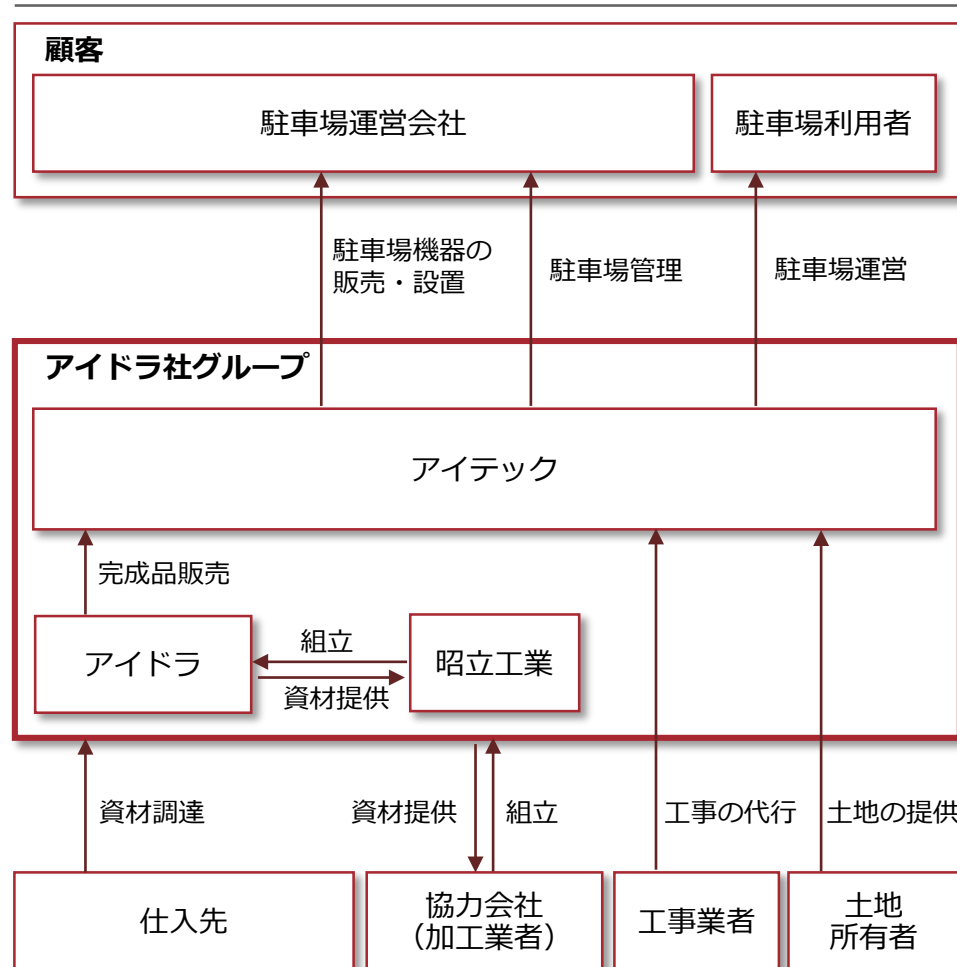
アイドラ社グループ 事業概要(1/2) :

アイドラ社グループは1994年の創業来、駐車場機器の製造販売＋駐車場運営受託事業を通じ、日本全国にIoT機器を10万台以上配置し、クラウドに繋げてきました

沿革

1994年 7月	駐車場機器の製造開発を目的とし創業
1995年10月	大手駐車場設備機器メーカーのゲート式パーキングシステム開発を受託
2001年 7月	新たな駐車場設備機器メーカーとして自社製品を開発・製造・販売
2004年 1月	フロントロック版を開発
2005年 5月	バリアフリー（昇降式）ロック版を開発
2005年 6月	防犯カメラの遠隔監視システムを開発
2006年 3月	ゲート式駐車場システムを開発
2007年 7月	アルコールチェッカー付精算機を開発
2009年 7月	ナンバー認識用3メガピクセル（300万画素）カメラを開発。ナンバー認識システムを開発
2009年11月	駐車場検索システムを開発し、サイトを立ち上げ
2010年 3月	ナンバー認識システム「ロックレス」販売開始
2012年 8月	ゲート用ナンバー認識システムを開発
2012年10月	トヨタメディアサービスの充電器G-Stationと精算機を連携
2013年 3月	スマートフォンから精算できるアプリを開発
2014年 1月	提携店舗にスマートフォンを設置し、駐車証明書を読ませてサービス情報をデータ送信する「NETサービス」開始
2014年 5月	スマートフォンから精算できるゲート用アプリを開発

商流



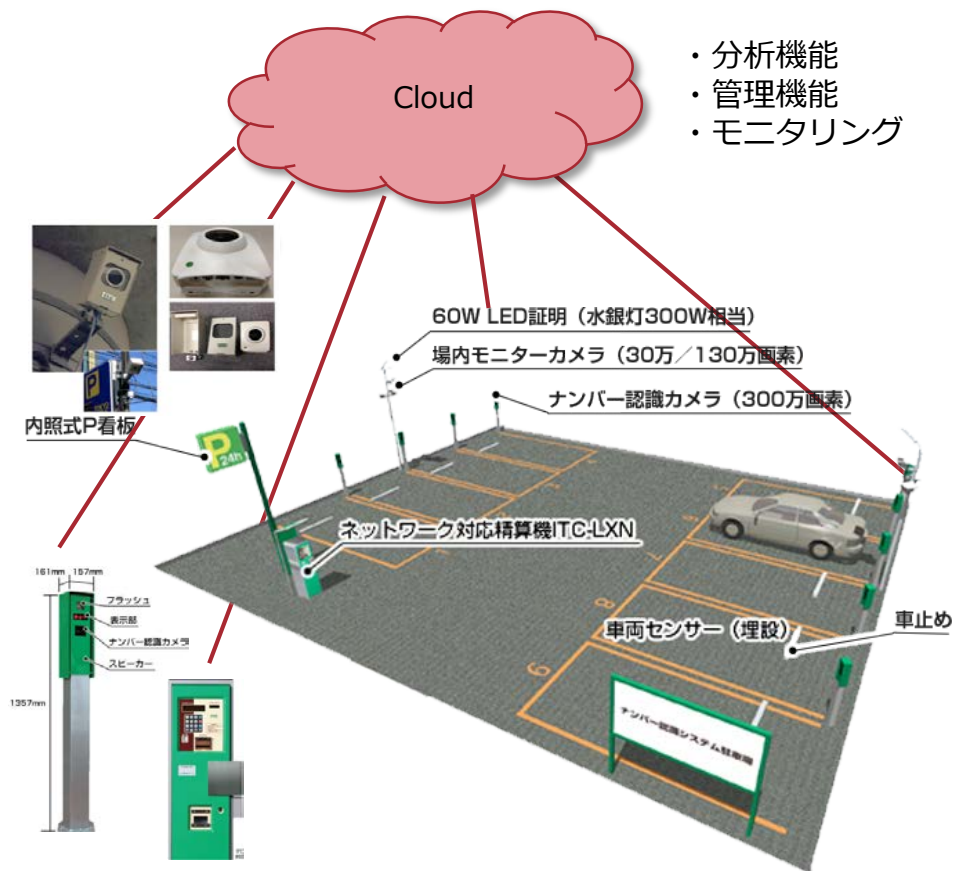
アイドラ社グループ 事業概要(2/2) :

安定的なストック型収益基盤のもと、サービス基盤を拡大させてきました

特徴 1 :

駐車場スペースをクラウドに繋げサービス提供

- ・分析機能
- ・管理機能
- ・モニタリング

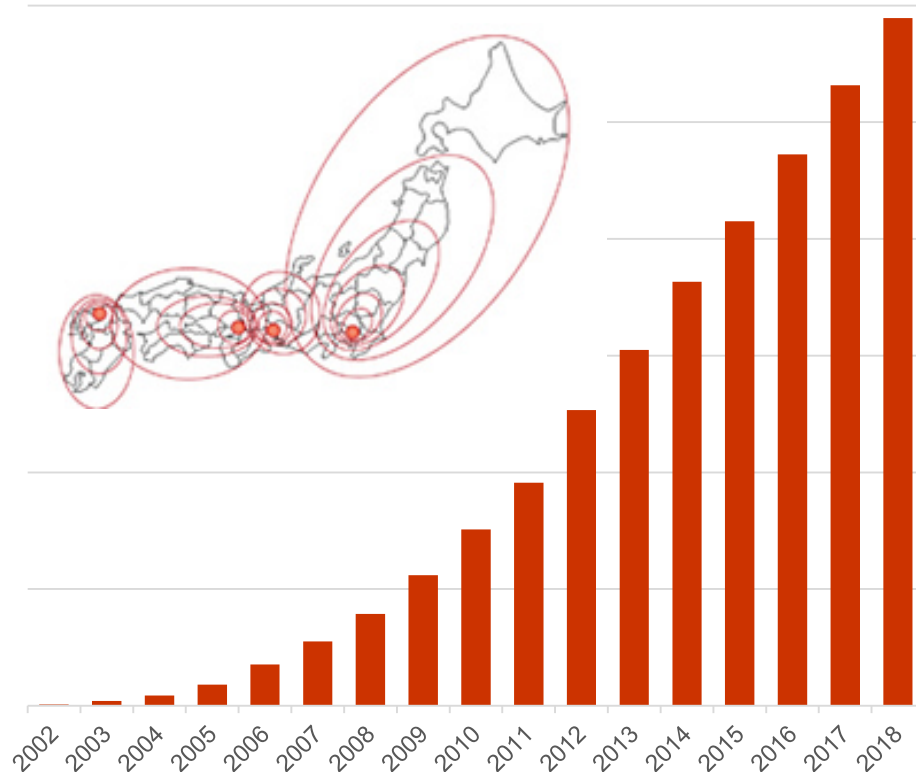


特徴 2 :

安定的なストック型収益基盤を確立

機器設置 車室数の推移

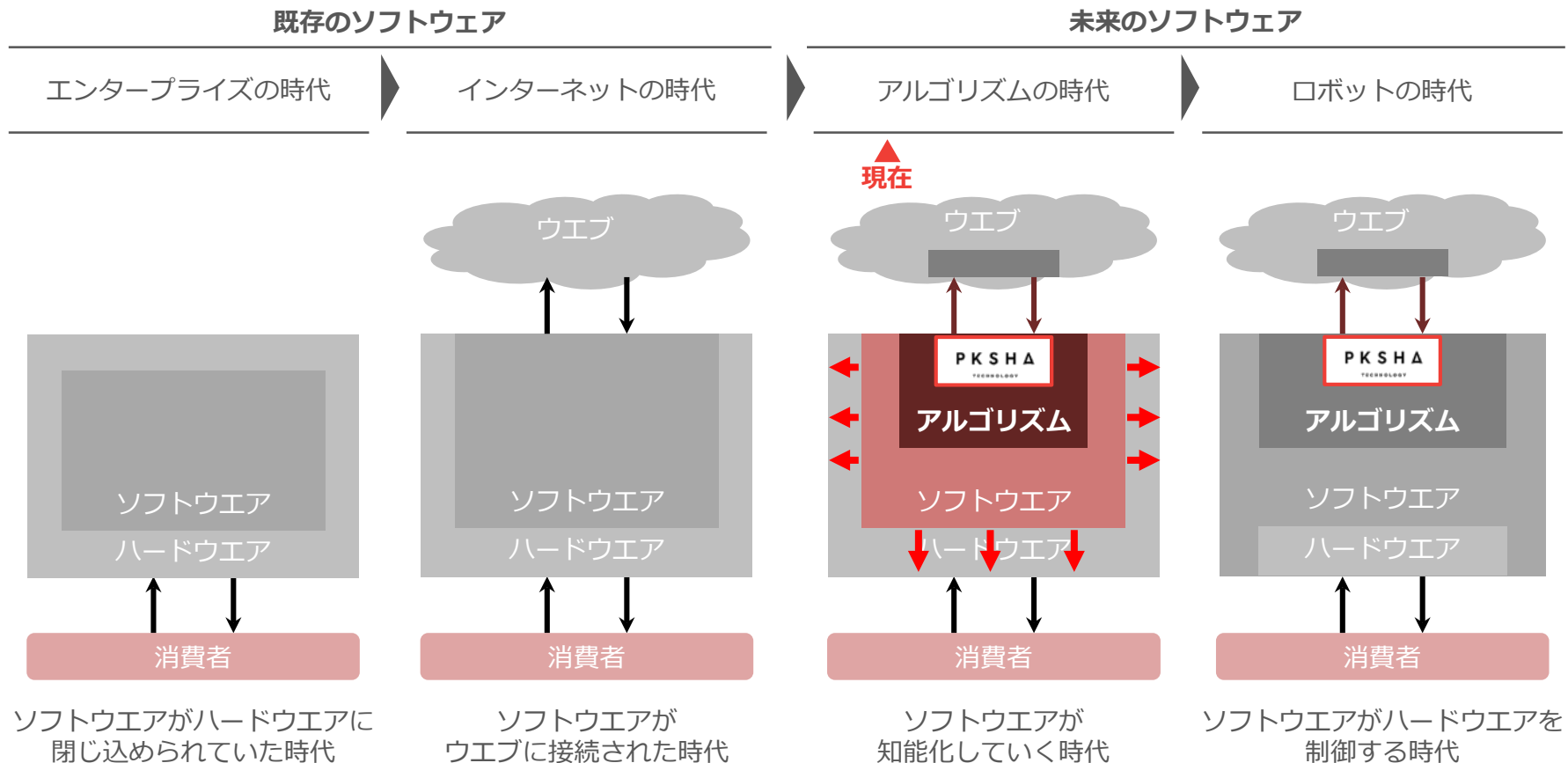
10万車室以上



→ アルゴリズムモジュール&ソフトウェアを活用した事業シナジーを見込む

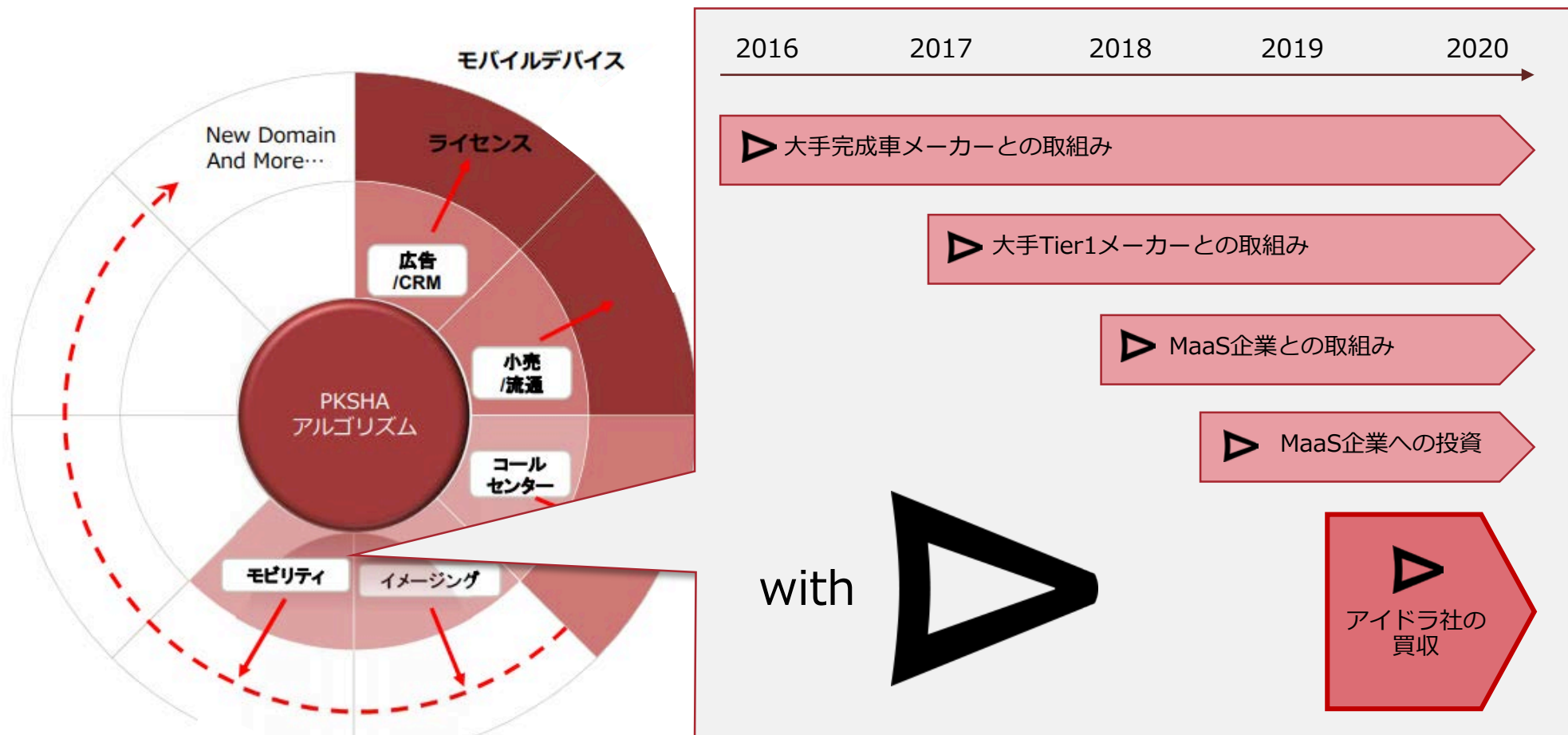
アイドラ社買収の狙い：IoT端末へのアルゴリズムバリューチェーン拡張

- 当事業領域において、アルゴリズムを搭載するIoT端末へとバリューチェーンを拡大します
(これまで10年以上かけて10万端末以上を設置)
- これまで当社のアルゴリズムはソフトウェア（デジタル空間）に閉じていましたが、
これからはリアル空間との接地面と垂直統合していきます



アイドラ社買収の狙い：Mobility & MaaS領域への展開強化

- アイドラ社の事業は将来的にMaaS領域のラストワンマイルを担うものです
- アルゴリズムソフトウェアとの事業シナジーが強く、当社グループとの協業により多様な収益モデルの展開が可能となります
- これまでのMobility & MaaS 領域との相乗効果を見据え、事業展開して参ります



トピック②：MONETコンソーシアムへの参加

- ソフトバンク株式会社とトヨタ自動車株式会社を中心となり組成した、次世代モビリティサービスを推進するコンソーシアムに加盟しました
- 今後、MONETコンソーシアムへの参画を通じて、多種多様な企業と連携しながらMaaS事業を推進します

MONET コンソーシアム加盟についてのお知らせ

当社は、ソフトバンク株式会社とトヨタ自動車株式会社の共同出資会社である MONET Technologies 株式会社（モネ・テクノロジーズ、以下「MONET」）が 2019 年 3 月 28 日に設立した「MONET コンソーシアム」に加盟しましたのでお知らせいたします。

「MONET コンソーシアム」は、モビリティイノベーションを実現する『なかまづくり』の一環として、企業間の連携を推進するために「MONET」によって設立されました。多様な業界・業種の企業が参加し、自動運転を見据えた MaaS (Mobility as a Service) 事業開発などの活動を行うことで、次世代モビリティサービスの推進と、移動における社会課題の解決や新たな価値創造を目指しています。

当社は、本日付公表の「モビリティ MaaS 領域におけるアルゴリズムの社会実装に向けた株式会社アイドラの株式取得に関するお知らせ」にてお知らせのとおり、駐車場機器の製造販売・駐車場運営事業を通じ、IoT 機器を日本全国に配置しリアル空間のデータをクラウドに繋げる株式会社アイドラの全株式を取得することを決議しており、モビリティ MaaS 領域において、IoT 端末による情報収集から顧客への製品・サービス提供までのバリューチェーンを垂直統合することで、アルゴリズムが提供する付加価値を最大化すべく新たな取り組みを開始しております。

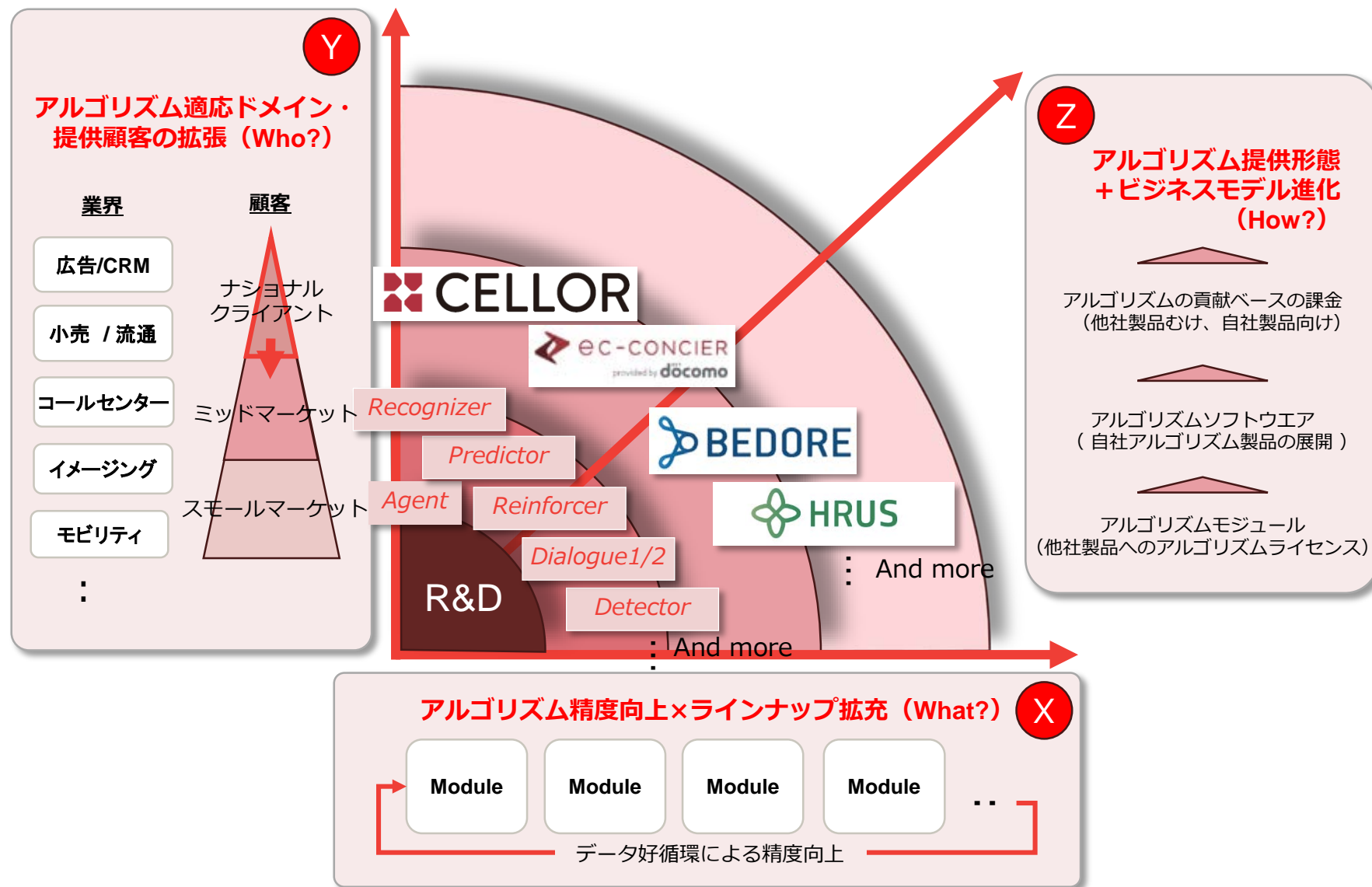
今後、「MONET コンソーシアム」への参画を通じて、多種多様な参加企業と連携しながら、モビリティ MaaS 領域における新たなサービス創造を進めてまいります。

目次

1. Mobility & MaaS領域への展開強化

2. 中期成長戦略：ビジネスモデルの進化

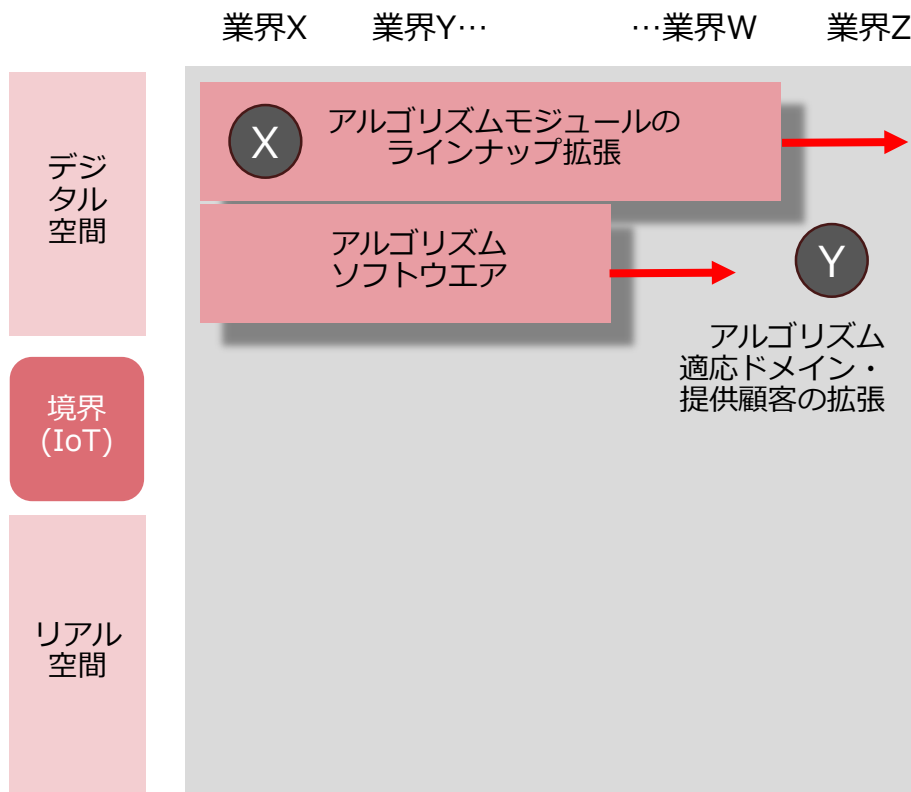
中期成長の3軸：アルゴリズムライセンスビジネスの展開図



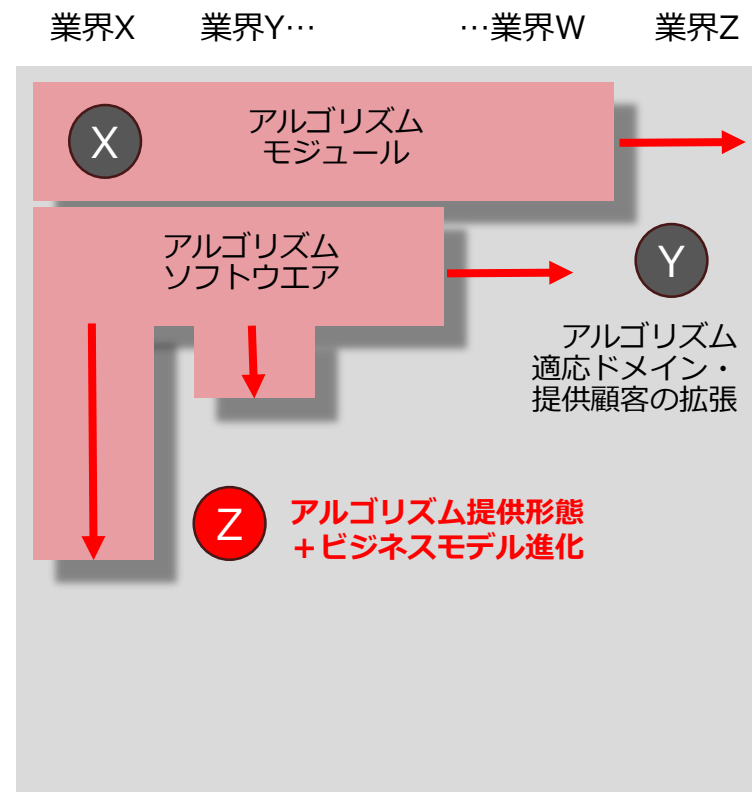
Z アルゴリズム提供形態+ビジネスモデル進化

今後、特定領域においては、バリューチェーンを縦に垂直統合することでアルゴリズムの社会実装を加速します

これまで：
アルゴリズムソフトウェアレイヤ

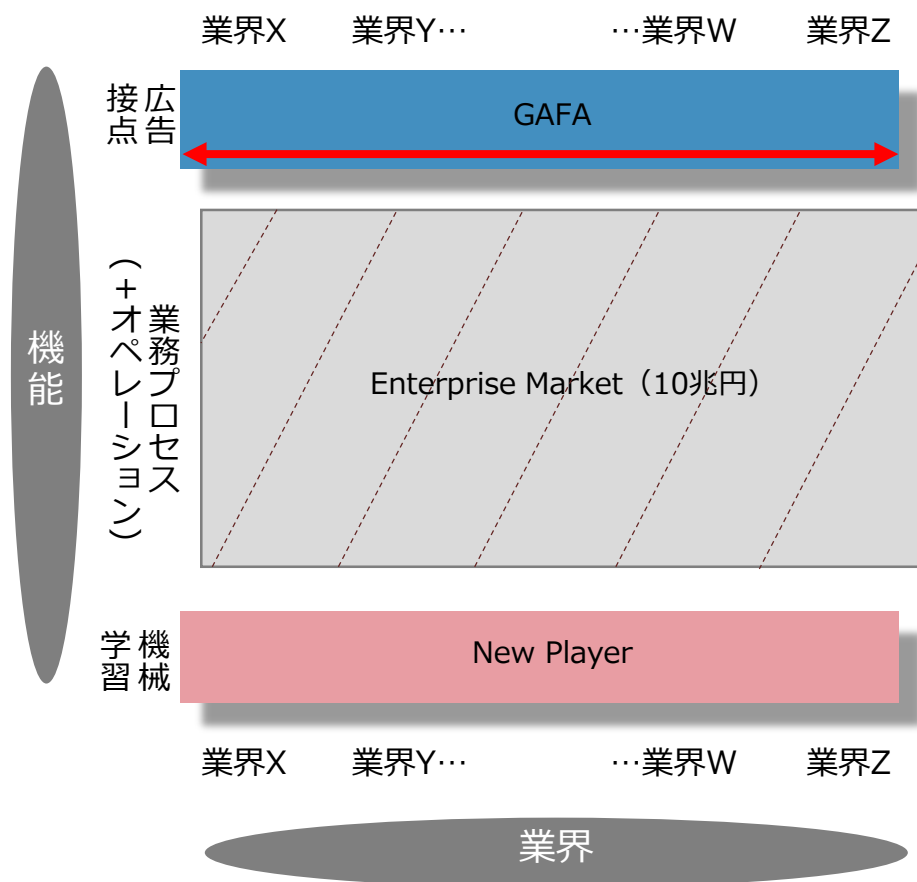


これから：
特定領域は縦に垂直統合

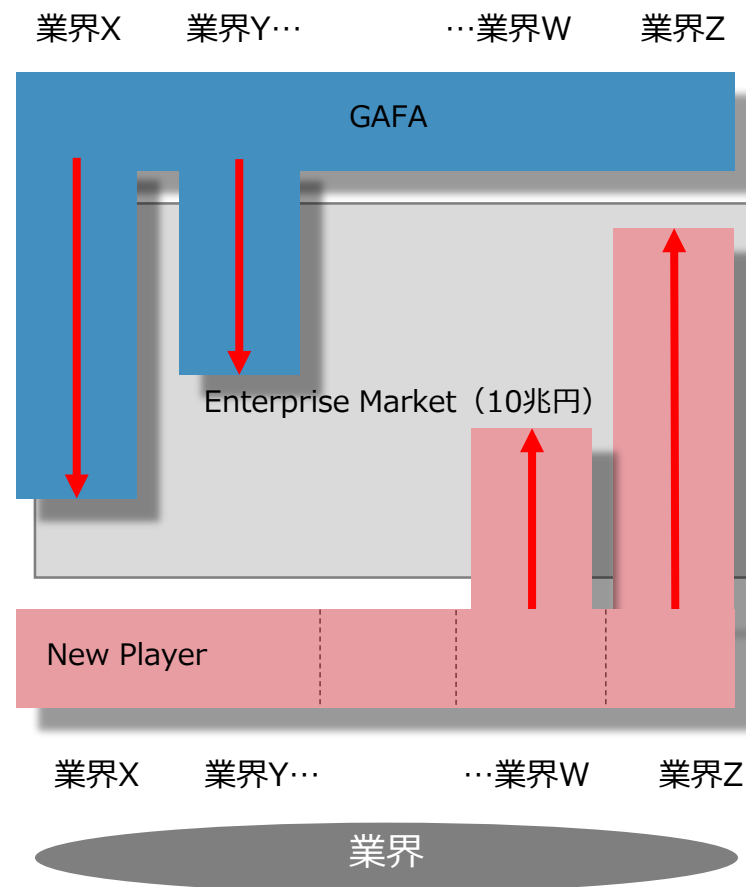


未来のソフトウェアが社会実装される方向性 (PKSHA見立て)

これまで：
機能別「横」への展開



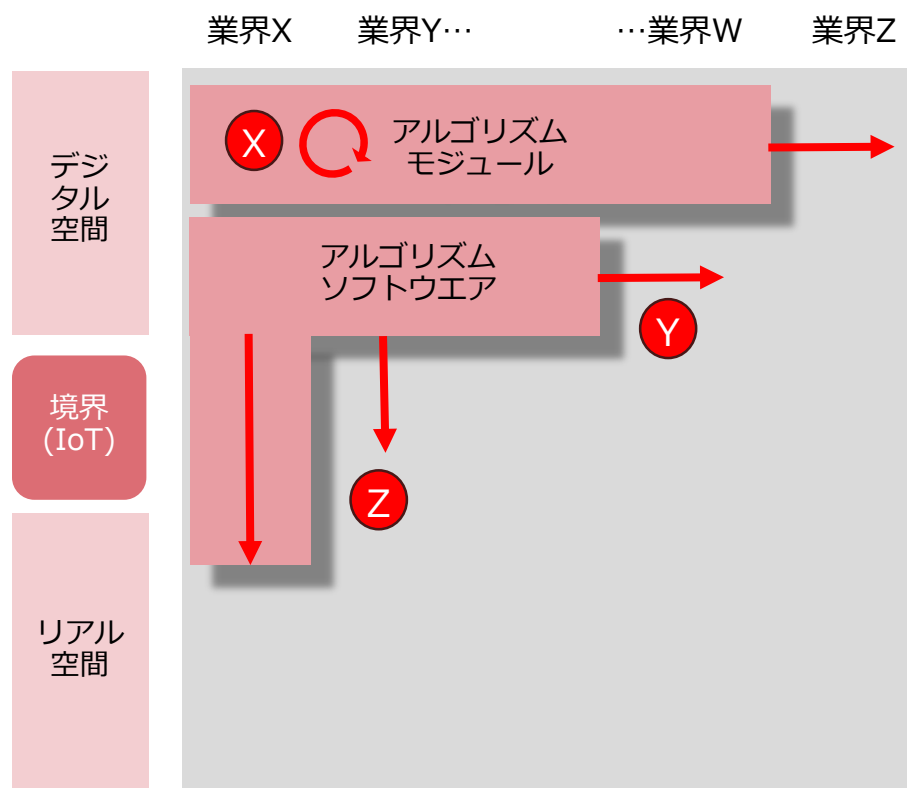
これから：
業界別「縦」への展開



更なる成長にむけた投資を実行

～事業強化領域のメタ構造と重点投資領域～

事業対象領域のメタ構造 と中期成長の3軸

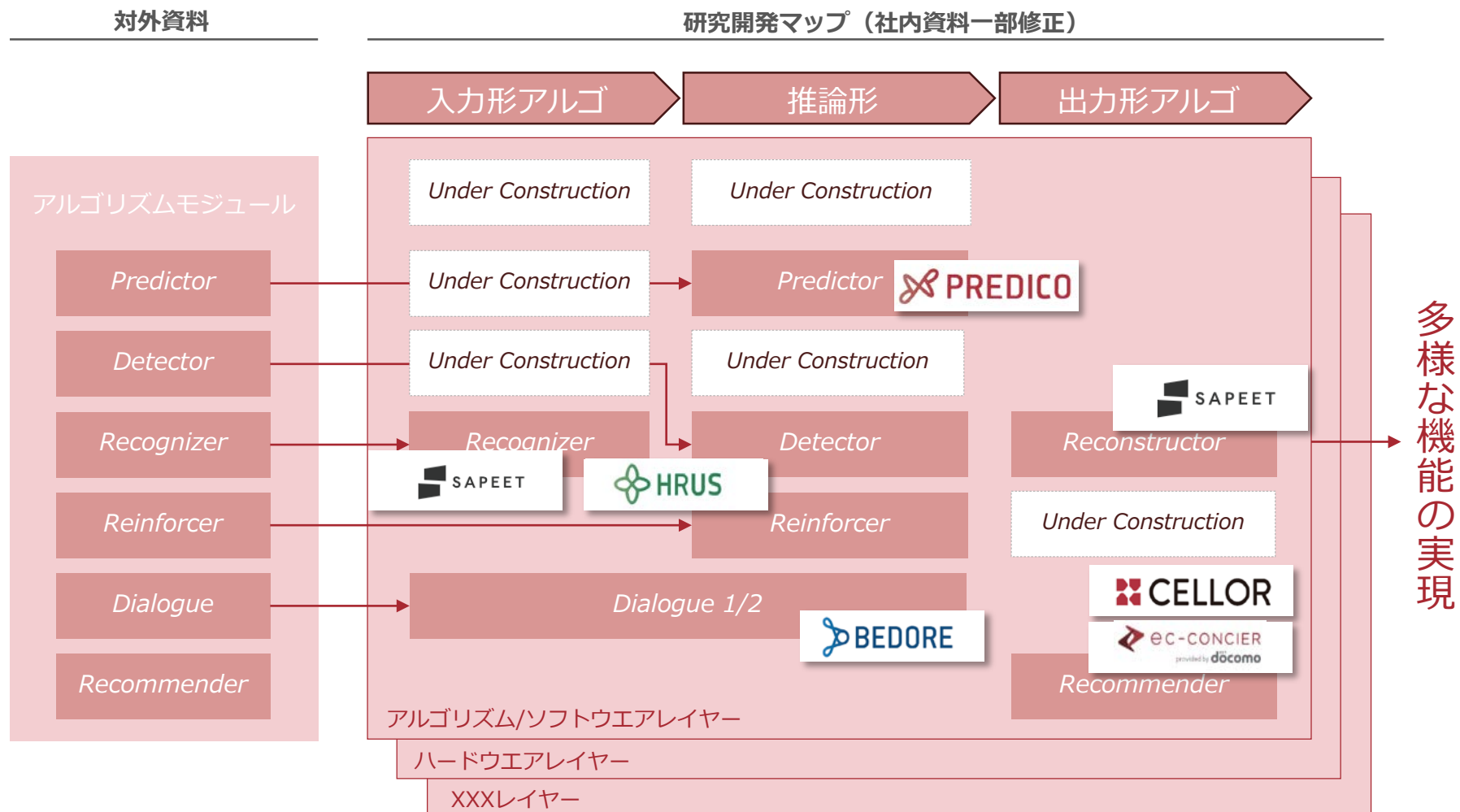


重点投資領域

- X**
 - アルゴリズムモジュール拡張と研究開発加速
 - 1. R&Dの更なる強化 (産学連携 等)
 - 2. モジュールの拡張&品質向上
- Y Z**
 - 特定領域のアルゴリズムソフトウェア強化
 - 1. Mobility & MaaS [リアル空間] 強化
 - 2. Cloud Intelligence 領域の強化
 - 3. Financial Intelligence 領域の強化
 - 4. Machine Intelligence 領域の強化
 - バリューチェーンの垂直統合

⊗ アルゴリズムモジュール拡張と研究開発加速

- 未来のソフトウェアの構成要素が各事業から集まり始めているが、さらに研究開発を強化します
- ファーストムーバーである立ち位置を生かし、好循環構造をさらに強化します

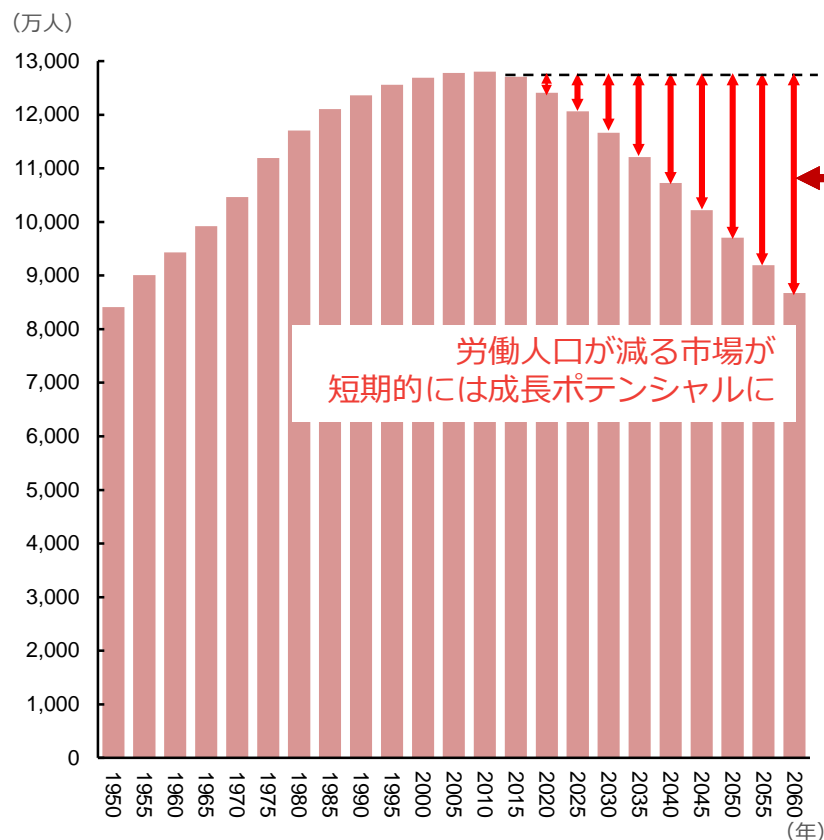


Y Z : 特定領域のアルゴリズムソフトウェア強化+バリューチェーン拡張 環境認識① : 人口減という不可逆なダウントレンド = 成長ポテンシャル

- 国内の労働人口は2015年以降急速に減少し始め、アルゴリズム・ソフトウェアによる業務支援・業務維持は喫緊の課題です
- ソフトウェアによる労働生産性の向上は必須であり、人口減少分が成長ポテンシャルになると考えております

国内人口推移予想

ソフトウェア化・アルゴリズム化
されやすい市場の要件



同じ事が繰り返し行われている業務
内容がデータとして記録されやすい業務
• 問い合わせ対応 等

人材採用の難易度が高まっている業務
• コールセンター、飲食、小売 等

人よりもコンピュータの方が得意な業務
• データ処理、データ解析 等

(出所) 内閣府「平成28年度高齢社会白書 (全体版)」

Y Z : 特定領域のアルゴリズムソフトウェア強化+バリューチェーン 拡張 環境認識② : 人口減と “先進的”社会課題

- 課題先進国であるが故に、日本には社会課題(=ニーズ)による「製品を磨き上げる機会」が存在しています

業種別 労働人口不足ランキング
(上位10位、下位5位)

労働人口不足の職業(上位10位)	有効求人倍率	不足している 人員数
警備・保安の職業	7.23	-756,728
建築・土木・測量技術者	5.07	-541,438
接客・給仕の職業	3.85	-1,129,455
介護サービスの職業	3.57	-1,859,255
飲食物調理の職業	3.16	-1,214,029
自動車運転の職業	2.72	-792,897
社会福祉の専門的職業	2.62	-796,449
保健師、助産師、看護師	2.35	-679,137
商品販売の職業	2.26	-1,284,014
清掃の職業	2.04	-547,174

労働人口過剰(≒なりたい人が多い)の職業(上位5位)	有効求人倍率	受け皿のない 人員数
美術家、デザイナー、写真家、映像撮影者	0.56	92,983
製造技術者	0.55	96,030
一般事務の職業	0.35	3,431,486
その他の運搬・清掃・包装等の職業	0.30	1,727,919
分類不能の職業	0.00	1,669,054

そこから発生する 先進社会課題

特定業界で加速する、不可逆・恒久的な人手不足にどう対応していくべきか？
 • 警備、コールセンター、接客、小売

特定領域で特に「高齢化」が加速する中、どのように対応していくべきなのか？
 • スムーズな移動、快適な老後生活

ポスト情報化社会における Well-beingとはそもそも何か…？

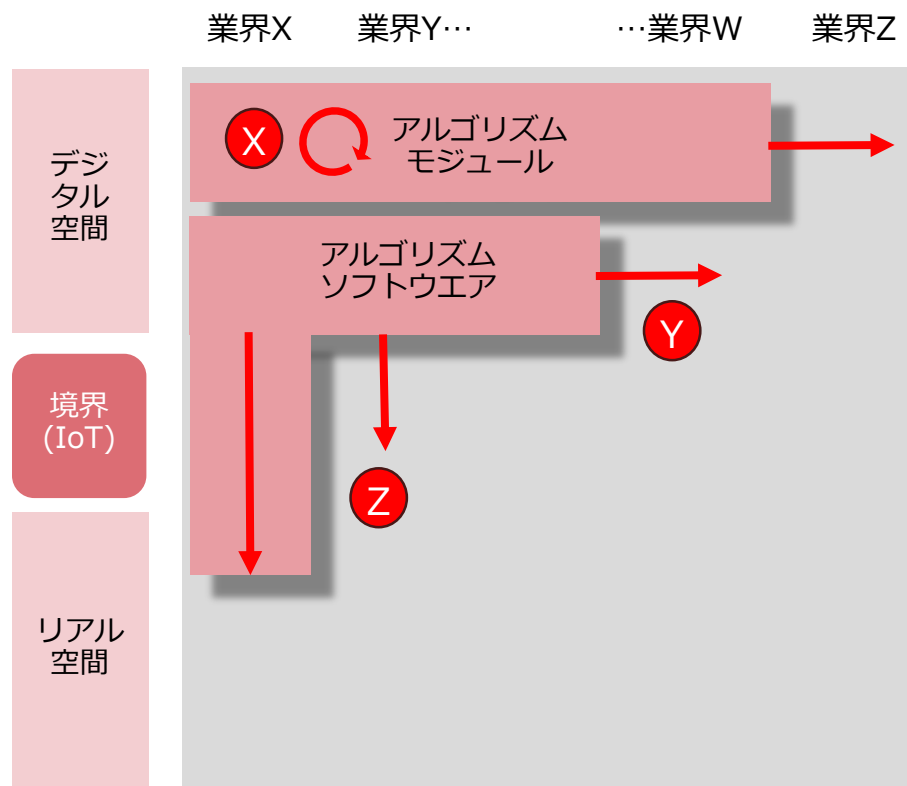
(注) 平成29年集計。

(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」に基づき、PKSHA Technology作成。

成長の時間軸：3年間は注力領域に積極投資（2023年頃から収穫期に）

- 知能化技術が既存業界に“染み込み”、ビジネスモデルが知能化技術により“反転”するのに要する期間を加味した投資バランス
- 本技術レイヤーの社会実装において、国内でファーストムーバーである強みを生かした事業戦略

事業対象領域のメタ構造 と中期成長の3軸

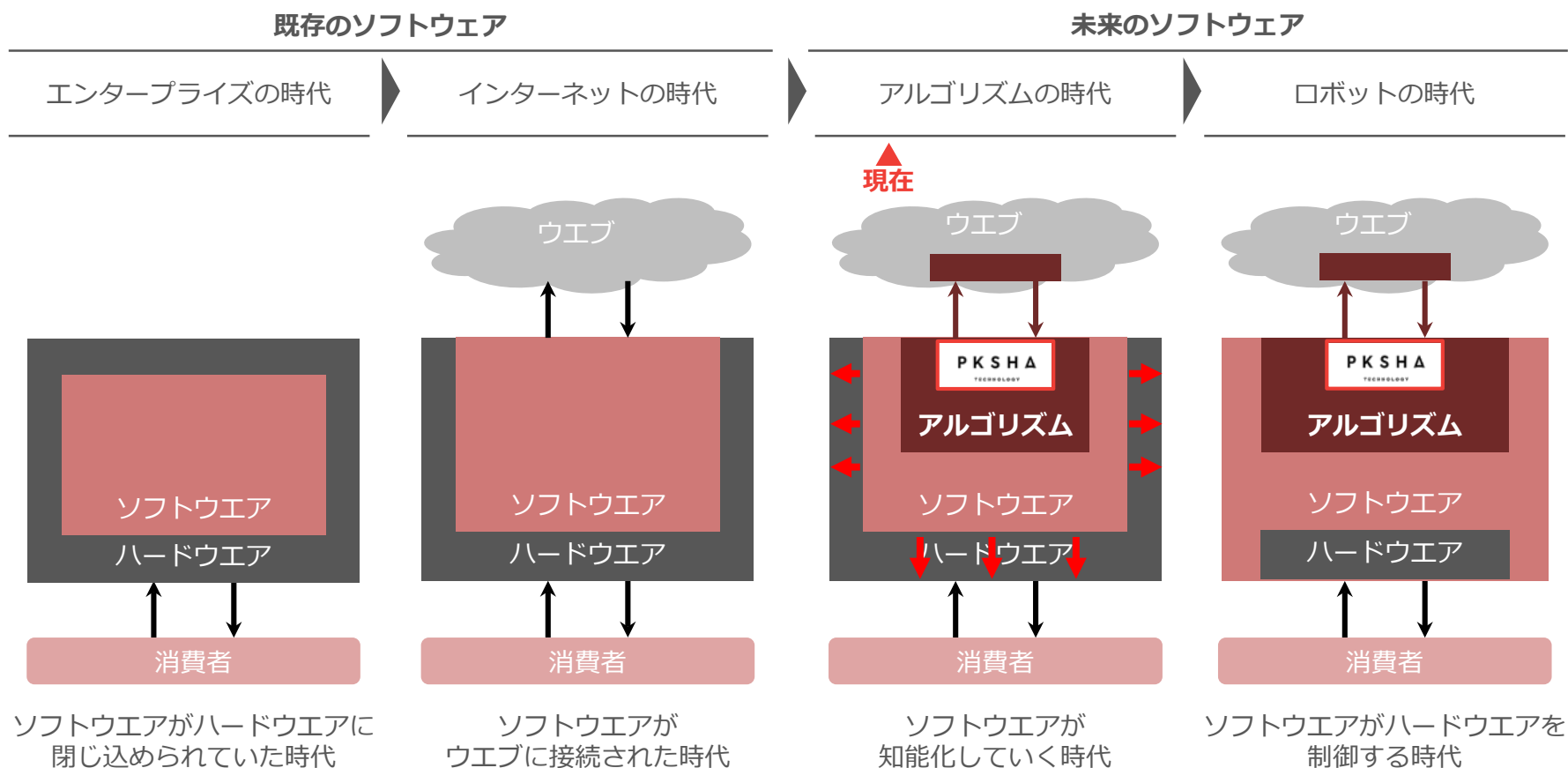


重点投資領域

- X** アルゴリズムモジュール拡張と研究開発加速
 1. R&Dの更なる強化（産学連携 等）
 2. モジュールの拡張&品質向上
- Y Z** 特定領域のアルゴリズムソフトウェア強化
 1. Mobility & MaaS (リアル空間) 強化
 2. Cloud Intelligence 領域の強化
 3. Financial Intelligence 領域の強化
 4. Machine Intelligence 領域の強化
 バリューチェーンの垂直統合

Vision : 未来のソフトウェアを形にする

- 現在、様々なデバイスから収集されるデータがアルゴリズムによって学習され、ソフトウェアは智能化し始めています
- 各種ソフトウェア・ハードウェアを智能化していく「未来のソフトウェア (=アルゴリズム)」を形にすることをコーポレートミッションに、事業展開を加速してまいります



将来見通しに関する注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。